

高校生活最後の体育祭が終わりました。一つずつ3年生が参加できる学校行事が減って寂しい気分を感じていることでしょう。

さて受験勉強の進み具合は如何でしょうか? 「受験勉強って何をしたら良いですか?」よく聞かれる質問ですが、そのヒントになればと思います。これから4回にわたり、英・数・国(現・古・漢)の勉強法を紹介します。今回は英語です。



心構え

今勉強していることが社会に出てからも必要な英語力を身につけるための基礎になります。語彙・文法だけでなく様々な背景知識(環境・教育・政治・福祉・歴史・生物・科学技術・宇宙・文化・ポップカルチャー・医療・経済・国際情勢…etc)を知ることは、英文読解力を高めるだけでなく、自分の視野を広げることにもつながります。英語のテキストで扱っていることは現在国際的に関心の高い話題が多く、これらの話題について知っていることはもちろん、自分なりの意見を持っていることが、グローバル社会で生きていくみなさんにとって必要なことなのです。直近では「受験」という目標のために英語の勉強をするという人も多いとは思いますが、この受験勉強が将来に生きると思うと、勉強が楽しく感じられるのではないのでしょうか!

計画の必要性

自分の現状をよく知るためにも、**計画**を立てることから始めましょう。模試の結果や普段自分に足りない力だと感じていることを、取り組むべきこととして可視化しましょう。それがわかれば、参考書等の分量や種類も自ずと決まります。「何月までにどの問題集を何回こなすか」とか「そのために一日どれだけの量をやるか」という計画が立てられることになるのです。長期的な視野で、ゆとりを持って調整可能な計画を立てましょう。

「読む」、「文法」、「書く」、「聴く」、「話す」の勉強法

1. 読むー Reading

(1) 長文読解

長文はパラグラフリーディングのスキルを使いましょう。話の流れが分かれば、分からない箇所があってもカバーできるものです。長文問題は文章中に答えが出ています。まずは、答えは出ている!と自分に言い聞かせ、読みとれないのは語彙力のせい、文法力、構文力のせいなのかを分析しましょう。英語 Communication I・II・IIIの教科書をもう一度読んだ時に、スラスラと読めないところ、そのレベルの文章が今、やるべき所です。

(2) 速読

入試で出題される英文の語数は年々増えています。パラグラフリーディングを使って要旨を素早く掴み、簡単な部分は素早く正確に読み、難しい部分に時間を使えるようにしましょう。速読教材は読むスピードを可視化するための工夫(計算式など)があるので、今まで使った教材を読み返してみるのも良いでしょう。現在の北高3年生の平均wpm(1分間に何語読めるか)が100です。共通テストでは120あると有利で、最難関の大学では150が目標とも言われています。予習や復習をやる際に時間を決め、少し短い時間で読解に挑戦しましょう。

(3) 音読

読解力をつけるには音読は欠かせません。音読はすでに内容が理解できているものを使うのが良いでしょう。CDやアプリを利用して発音、アクセントに気をつけて読みましょう。オーバーラッピングやシャドーイングで英語本来の音やリズムを身につけると、意味のまとまりで英語が聞きとれ、自分の口からもずらずらと出てきます。その状態は単語や表現が身についたことを意味します。

2. 文法 – Grammar

苦手な項目について1つ1つじっくりと取り組み克服してください。例えばそもそも「時制」って何？と思ったら、1年次に使ったグランドビューの解説を読んで確認問題をやってみましょう。また、Vintageを何周も繰り返すことも効果的です。ただ、繰り返しているうちに答えは覚えてしまったという人がいます。それでは意味がありません。なぜこの答えになるのか、理由が説明できるようになる解き方に変えましょう。受験体験記などを読むと、成功例では多くの先輩が何らかの文法問題集を「何周もした。」「ぼろぼろになるまでやった。」と言っています。何回もやる中で少しずつ定着します。北高生ならできる！諦めないで！

3. 書くこと – Writing

英作文は今まで習ったこと（基本的な単語・熟語・文法項目）がきちんと整理され、それを日本語の意味する内容に当てはめて自由自在に使いこなせないと書けません。例文を暗唱して基本英文のパターンを覚え、間違えた表現・英文は答えを参照に覚えてしまうのもよい勉強法です。スペルや時制ミスによる減点は多く見られるので、そこを見直すだけでも簡単に得点アップができます。4技能試験や大学の2次試験に「自由英作文」が課される場合は、過去問題などを解いて先生に添削してもらいましょう。自分の考えや意見を述べるためには、さまざまな社会問題（働き方、少子高齢化、AI、移民問題など）の知識も必要となります。日本語でよいので、新聞などに毎日目を通すように心がけましょう。

4. 聴くこと – Listening

「何度聞いても聞こえない音がある。」とか「英文とは全く違う音に聞こえる。」という人がいます。実は、発音上弱く発音されたり、全く発音されない音があるのです。いくら耳を澄ませても聞こえない物は聞こえません。「この文はこう聞こえる」という体験こそがリスニング力を伸ばすためには必要なのです。その意味でもリスニング力を養うには経験値、つまり慣れることが必要です。ほとんどの教材で音声が入るようになっているので、英文を参照しながら何度も聞いてみましょう。音読を組み合わせるとさらに効果的です。また、リスニングには音の問題だけではなく、語彙・文法・様々な知識・長文の速読速解力など総合的な力が必要となります。

5. 話すこと – Speaking

日本語を英語に訳すのではなく、英語の表現が即座に出てくるよう訓練が必要です。「英語コミュニケーションⅢ」で使用している教材の要約を「書く」のではなく「話し」て訓練すると良いでしょう。英語4技能試験などでは解答準備に制限時間があります。その練習をすることで、英語を話すのに必要な即興性が鍛えられるかもしれません。英語を話すことは意識してやらない限りできるようなりません。やった分だけ実力が付きます。

番外編（語彙力は裏切らない！）

単語の意味を覚えるのは膨大な作業に思えますが、受験英語の得点アップに一番即効性があるかもしれません。語彙や内容理解に関する問題は、検定試験や大学入試の問題において比重が大きくなっています。夜寝る直前、朝早い時間帯などに単語・熟語学習を勉強のルーティーンに取り入れてはいかがでしょうか？

The only place where success comes before work is in a dictionary.

地道な努力あるのみです。